

党議員団が先進事例を視察

日本共産党根室市議団は10月5～6日、福岡県北九州市と大牟田市へ行き先進事例を学びました。今週の市議団ニュースではその模様をお伝えします。なお、今回の視察は、無所属の久保田陽議員とともに行いました。

10月5日(水)
福岡県北九州市
株式会社ナノクス
鮮魚の鮮度保持―超微細気泡ウルトラファイナブルの力
ウルトラファイナブル(UFB)とは、ファイナブル(微細気泡の総称)のうち、直径がナノサイズ(1ナノメートル≒10億分の1メートル)の気泡のことを言います。マイクロバブル(1マイクロメートル≒10万分の1メートル)とはさらに異なる特性を持ち、洗浄・殺菌作用を有することが確認されています。
ナノクス社の「ナノフレシシャー」は、優れた微細混合能力を持ち、効率よく且つ高密度に水中にUFBを生成します。窒素・酸素を使用した超



(作動中の装置を見学)

低酸素・超高酸素UFB海水で鮮魚を処理することで、長期間鮮度保持を実現します(以上、説明資料より抜粋)。
仕組みとしては、窒素ガス(ボンベ)と大気中の酸素、そして水(海水)をミキサーに取り込み、UFB水を効率よく生成するものです。

窒素UFBによる鮮度保持の効果は、一般社団法人水温協会ならびに株式会社水温研究所での実験により、高鮮度を保持し、体液(ドリップ)の流出を抑制・品質低下による異臭(腐敗臭)の発生を抑制・内臓物の状態、色が良好などの効果が確認されています。また、装置を搭載した近海マグロ延縄船の船頭、船員からは、「航海中、水替えは1回するかしなにか程度」「水揚げ後、船倉を洗うときに臭くない」などの声が聞かれています。

10月6日(木)

福岡県大牟田市

「まちで、みんなで認知症をつつむ」大牟田市における認知症の人の地域包括ケアの構築

人口約11万8千人の大牟田市における高齢者数は約4万人、高齢化率は34.4%、後期高齢化率は18.1%と、高齢化が進んでいます。平成17年1月、市長として初めて、

認知症の人とともに暮らすまちづくりを推進していくことを宣言し、10年間、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指しました。10年の節目を迎えた平成27年1月25日、市長は次の「認知症の人とともに暮らすまちづくり宣言2015」を発表しています。
「大牟田市は、子どもから大人まで、あらゆる世代の市民が心を一つにして、認知症の人やその家族の願いに寄り添い、地域社会において、誰もが人として尊重され、安心して暮らせるまちづくりを推進してまいります。」

地域包括ケアの基盤整備 (小規模多機能型居宅介護施設と地域交流施設)

大牟田市では小規模多機能サービス拠点の整備にあたって、日常生活圏内にある小学校区に1事業所を目標に掲げ整備してきました。また、地域住民が自らサービスの担い手として参加し、コミュニティの再生や新たなサービス基盤の形成を図

ることができるよう、介護予防及び地域交流の拠点として、地域交流施設の併設を義務化しました。

認知症の啓発(絵本教室の取り組み)



認知症ケア研究会が書いた物語に地域の24人の子どもたちが絵を描きました。認知症になったおじいさん・おばあさんを温かく見守る主人公や家族、地域が描かれています。この絵本を全小中学校の総合学習で活用し、その結果、子どもたちの理解が深まり、高齢者を支えています。